

概要版

第4期

さかい男女共同参画プラン

The gender-equality Sakai plan

2012年度(平成24年度)～2021年度(平成33年度)



基本課題 1

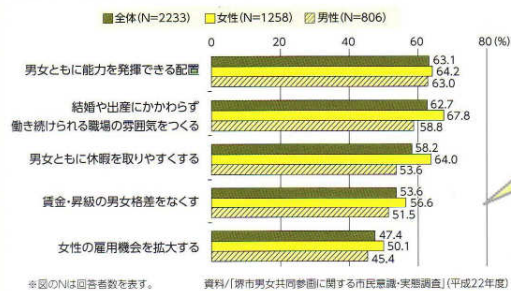
ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)の推進

市民一人ひとりが年齢や性別に関係なく、仕事と生活をバランスよく充実できてこそ、社会がさらに活性化します。

性別に関わりなく、誰もが働きやすく暮らしやすい社会となるように、市民、企業、地域活動団体等さまざまな主体と行政が進捗し、ワーク・ライフ・バランスについての社会的気運を盛りあげていきます。

また、保育・介護サービスの充実等の環境整備や、職場におけるセクシュアル・ハラスメントの防止対策を進めます。

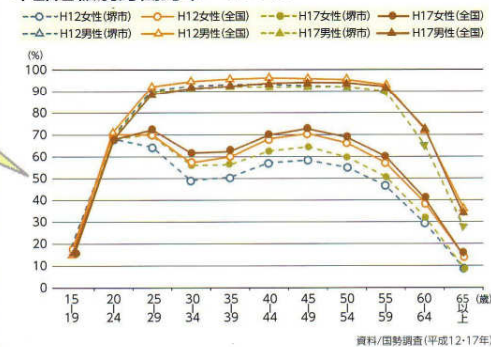
男女が対等に働くために必要なこと (堺市：複数回答)



「男女ともに能力を発揮できる配置」、次いで「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる」が、男女双方から望まれています。

※図のNは回答者数を表す。資料/「堺市男女共同参画に関する市民意識・実態調査」(平成22年度)

年齢階級別労働力率 (堺市・全国)



女性の年齢階級別労働力率をグラフに表すと、30歳代の部分が低くなったM字カーブを描きます。これは、結婚や出産、育児のために仕事を中断する女性が多いためだと考えられます。

資料/「世帯調査」(平成12-17年)

施策の基本的方向

1. 人間らしい生活を送るための働き方の見直し
2. 女性の活躍による経済の活性化
3. 男性の働き方の見直し
4. 育児・子育て・介護支援の充実

成果指標(アウトカム指標)	現状	目標(H33年度)
「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度	20.3%(平成22年11月)	50%以上
「年齢や性別にかかわらず、能力に十分に発揮できる環境が整っている」と答えた人の割合(「そう思う」「ある程度そう思う」の計)	27.1%(平成22年7月)	70%
★市の男性職員育児休業取得率	3.4%(平成22年度)	13%
男性の家事に関わる平均時間/6歳未満の子どもを持つ男性の育児に関わる平均時間(平日/1日当たり)	家事 0時間48分(平成22年11月) 育児 1時間10分(平成22年11月)	2時間30分

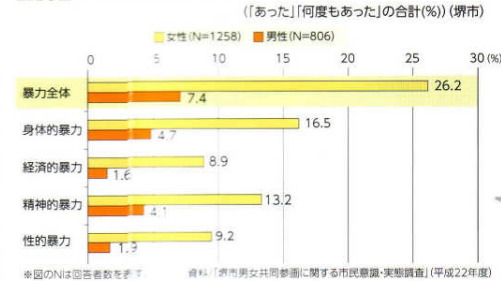
基本課題 2

すべての人が安心して暮らせる環境の整備

配偶者等からの暴力(DV)や子どもに対する虐待は、重大な人権侵害です。暴力を許さない意識づくりを進め、被害者の状況に応じたきめ細かな支援を進めるとともに、貧困に陥りやすい母子家庭、ひとり暮らしの高齢女性、障害がある女性、在住外国人女性、同和問題などの状況にも留意し施策を進めます。

さらに、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)が守られ、生命と多様な性を尊重する意識づくりを進め、安心して暮らせるまちをめざします。

配偶者・パートナーから受けたDV被害経験



「多様な性」とは
条例においては、「男女の性別にとどまらず、性同一性障害を有する人、先天的に身体上の性別が不明瞭である人、その他のあらゆる人の人権についても配慮されるべきこと。」との記載があります。

女性の4人に1人が、配偶者・パートナーから何らかの暴力を受けたことがあると答えています。

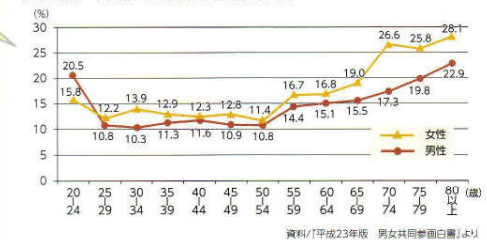
※図のNは回答者数を表す。資料/「堺市男女共同参画に関する市民意識・実態調査」(平成22年度)

DVの種類…DVは身体的暴力だけではありません!

- 身体的暴力：平手で叩く、足で踏く、突き飛ばす、物を投げておどす、骨折させる など
- 経済的暴力：生活に必要なお金を渡さない、食事をさせない など
- 精神的暴力：長時間無視続ける、交友関係や電話を細かく監視する、大声でどなる など
- 性的暴力：嫌がっているのに性的な行為を強要する、見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる など

25歳以上のすべての年齢層で女性より男性の貧困率が高く、特に女性高齢者が厳しい状況におかれていることがわかります。

男女別・年齢階級別相対的貧困率 (平成19年)(全国)



「相対的貧困率」とは
所得中央値の一定割合(50%が一般的。)以下の所得しか得ていない者の割合。預貯金や不動産等の資産は考慮していません。

資料/「平成23年版 男女共同参画白書」より

施策の基本的方向

1. 女性に対する暴力の根絶
2. 自立と安定した生活を送るための支援
3. 生涯にわたる健康支援
4. 子ども虐待の防止

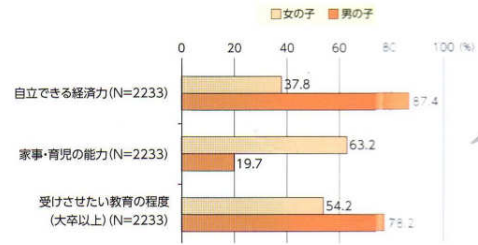
成果指標(アウトカム指標)	現状	目標(H33年度)
配偶者暴力防止法(DV防止法)の認知度	50.6%(平成22年11月)	100%
子宮がん検診・乳がん検診の受診率	子宮がん 25.1%(平成22年度) 乳がん 17.4%(平成22年度)	50%
子ども虐待に気づいたら通報するよう心がけている市民の割合(「積極的にやっている(心がけている)」「ある程度やっている(心がけている)」の計)	39.2%(平成22年7月)	100%

基本課題 3

子ども、男性、高齢者等にとっての男女共同参画の推進

男女共同参画を、すべての人が自らの課題として共感できるものとするため、子どもたちの学校園における男女平等教育、男性が働き方や生活スタイルを選択できる就業環境の整備、高齢者の社会参画に対する支援等環境の整備を進めていきます。

女の子・男の子に対する期待格差 (堺市)



男の子に対しては「自立できる経済力」、女の子に対しては「家事・育児の能力」を期待する人が多く、女の子と男の子で大きな差があることがわかります。また、受けさせたい教育の程度についても女の子と男の子で大きな格差があります。

※図のNは回答者数を表す。資料/「堺市男女共同参画に関する市民意識・実態調査」(平成22年度)

施策の 基本的方向

1. 男女平等教育の推進
2. 男性にとっての男女共同参画
3. 高齢者にとっての男女共同参画

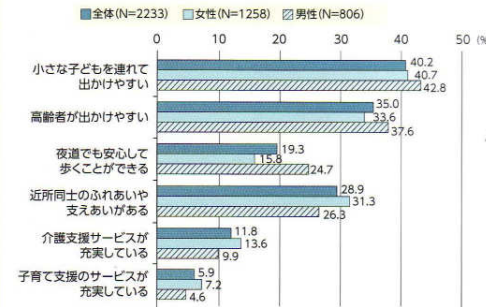
成果指標(アウトカム指標)	現状	目標(H33年度)
女の子・男の子に対する期待格差	自立できる経済力(「必ず身につけるべき」と回答した割合の差) 49.6ポイント 女の子37.8% (平成22年11月) 男子87.4%	女の子・男の子に対する高位の期待値に合わせ格差解消する
	家事・育児の能力(「必ず身につけるべき」と回答した割合の差) 43.5ポイント 女の子63.2% (平成22年11月) 男子19.7%	
	受けさせたい教育の程度(大学・大学院を希望する割合の差) 24.0ポイント 女の子54.2% (平成22年11月) 男子78.2%	
★市の男性職員育児休業取得率(再掲)	3.4% (平成22年度)	13%
男性の家事に関わる平均時間/6歳未満の子どもを持つ男性の育児に関わる平均時間(平日/1日当たり)(再掲)	家事 0時間48分(平成22年11月) 育児 1時間10分(平成22年11月)	2時間30分

基本課題 4

地域における男女共同参画の推進

少子高齢化や人間関係の希薄化などによる社会情勢の変化により、地域の抱える課題が多様化しています。子育てや介護、防災など、さまざまな分野で市民と協働し、地域が主体的に活動できるよう支援していきます。

地域の住みやすさの評価 (堺市:複数回答)



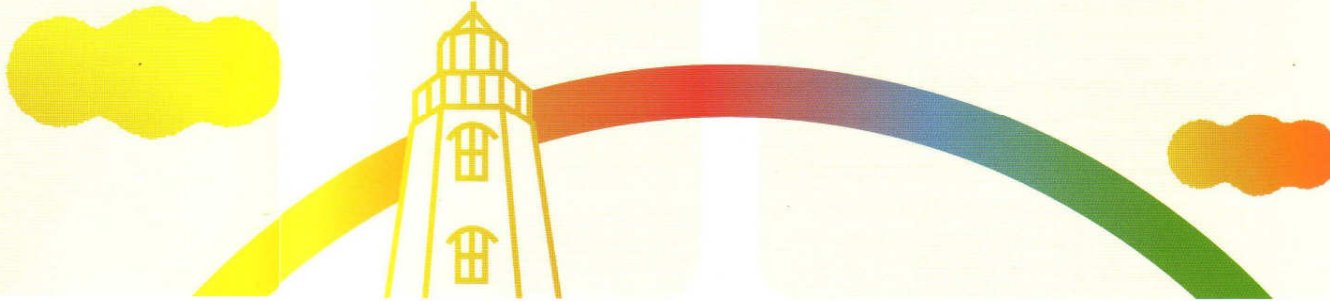
地域の住みやすさの評価をみると、子育て・介護支援サービスの充実についての評価が低くなっています。また、特に女性が夜道を安心して歩くことができないと評価しています。女性や高齢者、子どもを連れて人々に配慮した環境整備が、暮らしやすいまちづくりを進めるうえでの重要な課題となっていることがわかります。

※図のNは回答者数を表す。資料/「堺市男女共同参画に関する市民意識・実態調査」(平成22年度)

施策の 基本的方向

1. 活力ある地域活動の推進
2. 地域での支えあいによる育児・子育て・介護支援等の充実
3. 男女共同参画の視点に立った防災・環境その他の分野における安全・安心なまちづくり

成果指標(アウトカム指標)	現状	目標(H33年度)
男女共同参画交流の広場の認知度	女性 9.7% (平成22年11月) 男性 11.0% (平成22年11月)	女性・男性それぞれ50%以上
NPOやボランティア等の活動への参加状況・参加意向(「参加したことがある・今後も参加したい」と答えた人の割合)	女性 12.3% (平成22年11月) 男性 10.7% (平成22年11月)	女性・男性それぞれ30%以上
地域の住みやすさの評価	「夜道でも安心して歩くことができる」 19.3% (平成22年11月) 「小さな子どもを連れて出かけやすい」 40.2% (平成22年11月) 「高齢者が出かけやすい」 35.0% (平成22年11月)	90% 90% 90%



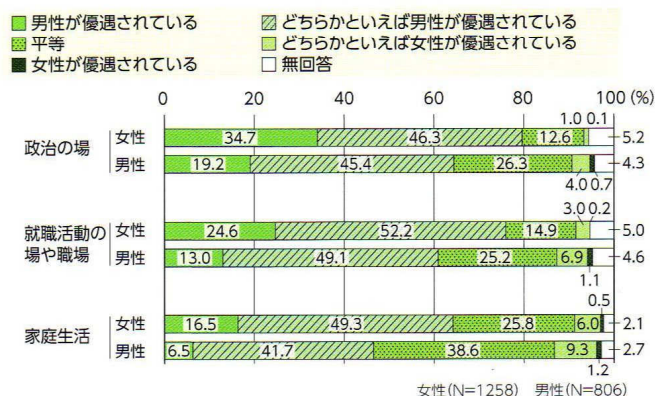
基本課題 5

男女共同参画による 都市魅力の創出

すべての人が性別にかかわらず個性と能力を発揮し、職場や家庭・地域などで活躍することにより、多様な視点や新たな発想を取り入れた活力ある社会になっていきます。

将来にわたり持続的に発展する魅力ある堺市として国内外からも評価されるよう、固定的な性別役割分担意識の解消に一層努めるとともに、意思決定過程への女性の参画をさらに加速させます。

様々な場における男女の地位の平等意識 (堺市)

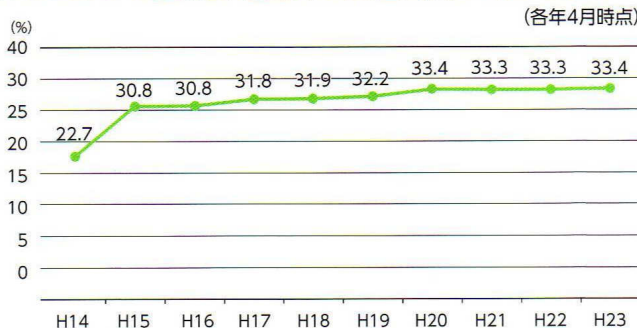


※図のNは回答者数を表す。

資料/「堺市男女共同参画に関する市民意識実態調査」(平成22年度)

政治・職場・家庭生活の中など、様々な場における男女の地位の平等意識をみると、いずれの場面においても男女の認識の差が大きいことがわかります。

堺市における審議会等委員の女性委員の割合の推移



堺市における審議会等委員の女性比率は、平成15年以降ほぼ横ばい状況となっています。

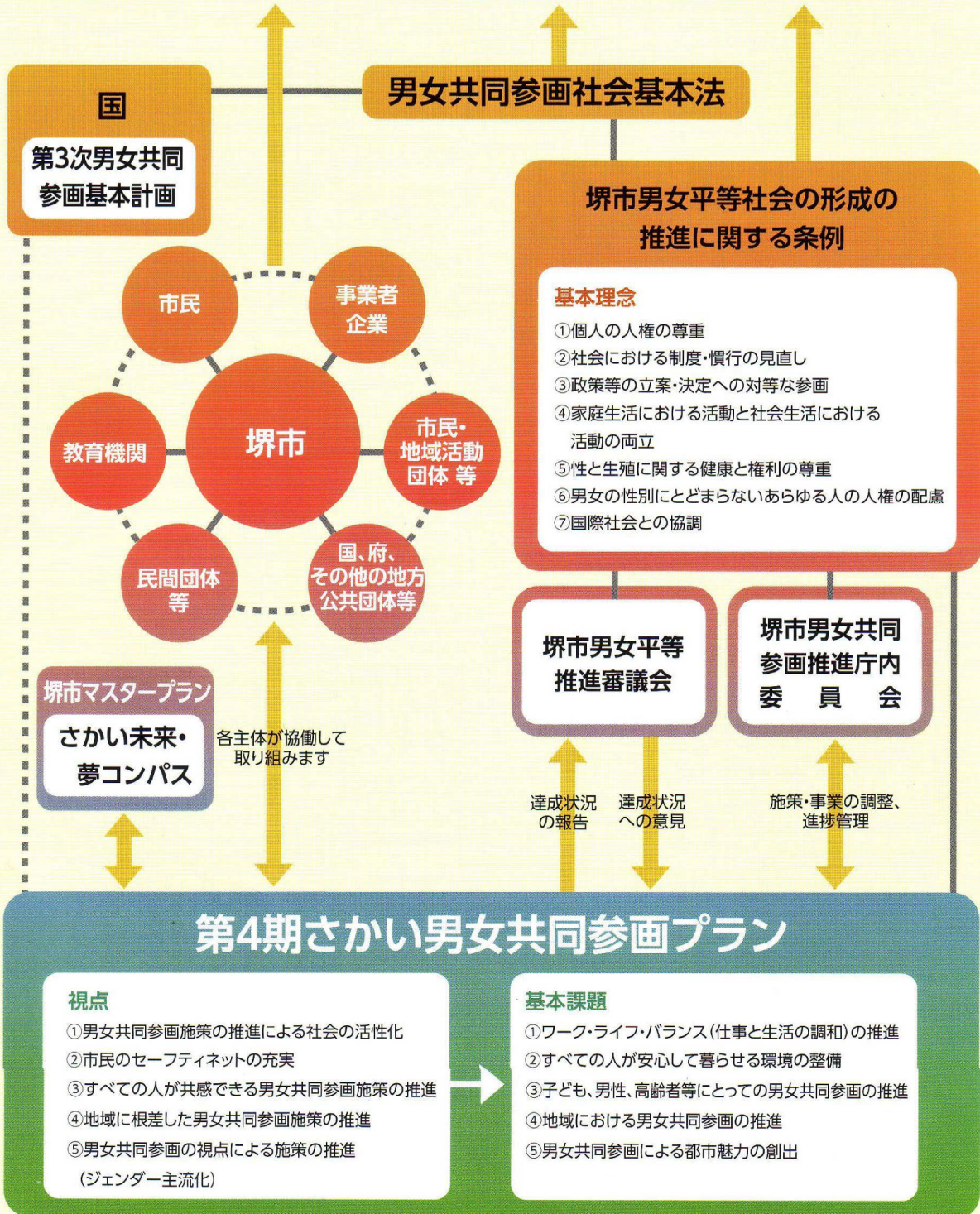
施策の 基本的方向

1. ジェンダー平等に向けた意識の変革
2. 政策方針決定過程への女性の参画促進
3. ジェンダー平等に向けた国際的協調

成果指標(アウトカム指標)		現状	目標(H33年度)	
男女共同参画社会基本法の認知度		26.0% (平成22年11月)	100%	
女性(女子)差別撤廃条約の認知度		13.4% (平成22年11月)	50%以上	
「夫は外で働き、妻は家庭をまもるべきである」という考え方に反対する人の割合(「反対」「どちらかといえば反対」の計)	女性	37.5% (平成22年11月)	女性・男性それぞれ 90%	
	男性	31.4% (平成22年11月)		
男女の地位が「平等である」と考える人の割合	政治	女性	12.6% (平成22年11月)	女性・男性それぞれ 90%
		男性	26.3% (平成22年11月)	
	職場	女性	14.9% (平成22年11月)	
		男性	25.2% (平成22年11月)	
	家庭	女性	25.8% (平成22年11月)	
		男性	38.6% (平成22年11月)	
★市の審議会等委員の女性比率		33.4% (平成23年4月)	40%以上60%以下	
市の管理職の女性比率(※堺病院、教職員を除く)		8.7% (平成23年4月)	12%	
市教職員管理職の女性比率		17.3% (平成23年4月)	25%	

男女共同参画社会の実現

すべての人が、互いにその人権を尊重しつつ、喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮し、あらゆる分野に対等に参画できる社会



「第4期さかい男女共同参画プラン」は男女共同参画推進課のホームページでご覧になれます。

堺市男女共同参画推進課 検索



第4期さかい男女共同参画プラン【概要版】 2012年(平成24年)3月発行

堺市 市民人権局 男女共同参画推進課

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号

TEL.072-228-7408 FAX.072-228-8070

ホームページ <http://www.city.sakai.lg.jp/>

